障がい者基幹相談支援センターだより

No.31

身近にある障がいを考える

地域自立支援協議会の啓発ワーキンググループでは、身のまわりにある社会的障壁を実際に体験し、その対応を考えることを目的とした「街歩き」を企画しました。

その第1弾として、3月28日に、車いすを利用している身体障がい児とその家族と一緒に市内のファミリーレストランを訪れました。

下の写真は、お店の出入口での一場面です。

このお店のドアは開き戸でしたので、車いす利用者はこのタイプのドアを開けることが困難で、お店に出入りできません。つまり、「開き戸＝障壁」となってしまいます。

このときは、一緒にいた人たちにドアを開けていただきましたが、一人で来ていた場合はどうすればよかったのでしょう。

こういった身近にある社会的障壁について考えるため、これからもさまざまな障がいのある方と一緒に「街歩き」を続けていきます。

こんなものも障がいになります

■問合せ先
障がい者基幹相談支援センター
☎055(262)1274
FAX 055(262)1276